

「地元のため」 合言葉に全力

成年女子が、県勢初優勝という金塙塔を地元国原頼子（自衛隊体育学校）は、「このためのみんなで力を合わせてきた。すごくうれしい」と喜びを爆発させた。

富山との決勝、1勝1分けで迎えた大将戦。柴野ア希（北関東綜合警備保障）が一本負けさえしなければ優勝という場面で、日本代表の田知本愛（東海大）が立ちはだかった。開始早々、いきなり技ありを奪われ会場からは悲鳴。柴野は「一本じゃなかつた。気持ちを切り替えよう」となおも強く猛攻を必死にしのぐ。残り1分、

30秒、10秒…。「すがる」の一本を決め、代気持ちだった。(国原)「長かった。このまま終わった。(滝沢苑果ニ創価大)と肩掛けたずを表戦では一回り以上も体のんで見守る中、終了の格が違つ相手に攻め続けブザーが鳴り響く。「や上が出た」という決勝戦った。(滝沢と国原は抱き合って喜び、貝沼尚監督(新潟第一高教は感極まつた)。地鳴りのよく判定勝ち。準決勝まで勝利がなかつた先鋒(せんぽう)、滝沢も「実力以上が出た」という決勝戦で一本勝ちし、優勝を引寄せた。貝沼監督は「本当のチームワーク」と称賛する。

新潟を離れ、今は別々の地で研さんを積む3人が地元団体のために集まる。国原は「高校から県外で、今まで新潟に恩返しができていなかつた」と言い、ほかの2人も新潟のために」と口をそろえる。郷土愛が、これ以上ない最高の形で結実した。

東京、富山ら総合力に勝る相手に競り勝つ。準々決勝の東京戦では、一矢報復の意を込めて、本勝ち以外は敗退という大将戦、続々代表権を染野が連勝し次につなげた。準決勝ではエース国原が中堅戦で貢献(かんた)。

△ 成

一

柔
十之決勝

道合体育

卷之三

新潟・同進

初瀬 決勝
けいせきせつじゆ

勝表 分賜

伊部 次

城

滝沢國原野新編

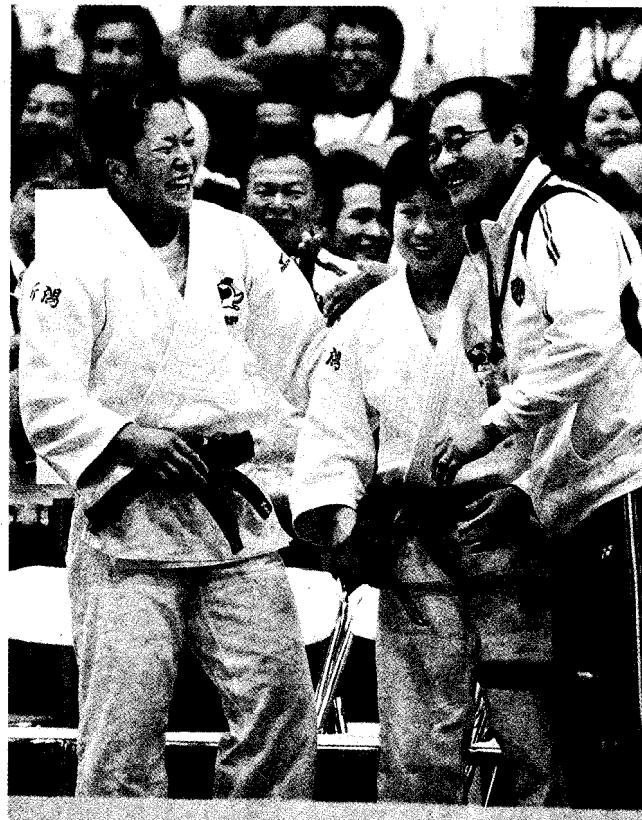
初優勝 け引きり太々

外刈勢分量西

中(2) 知本(2)

柔道
成年女子

県勢 初の頂点



初優勝に喜ぶ柔道成年女子の本県チーム。左から国原頼子選手、滝沢苑果選手、貝沼尚監督＝4日、新潟市北区の市豊栄総合体育館

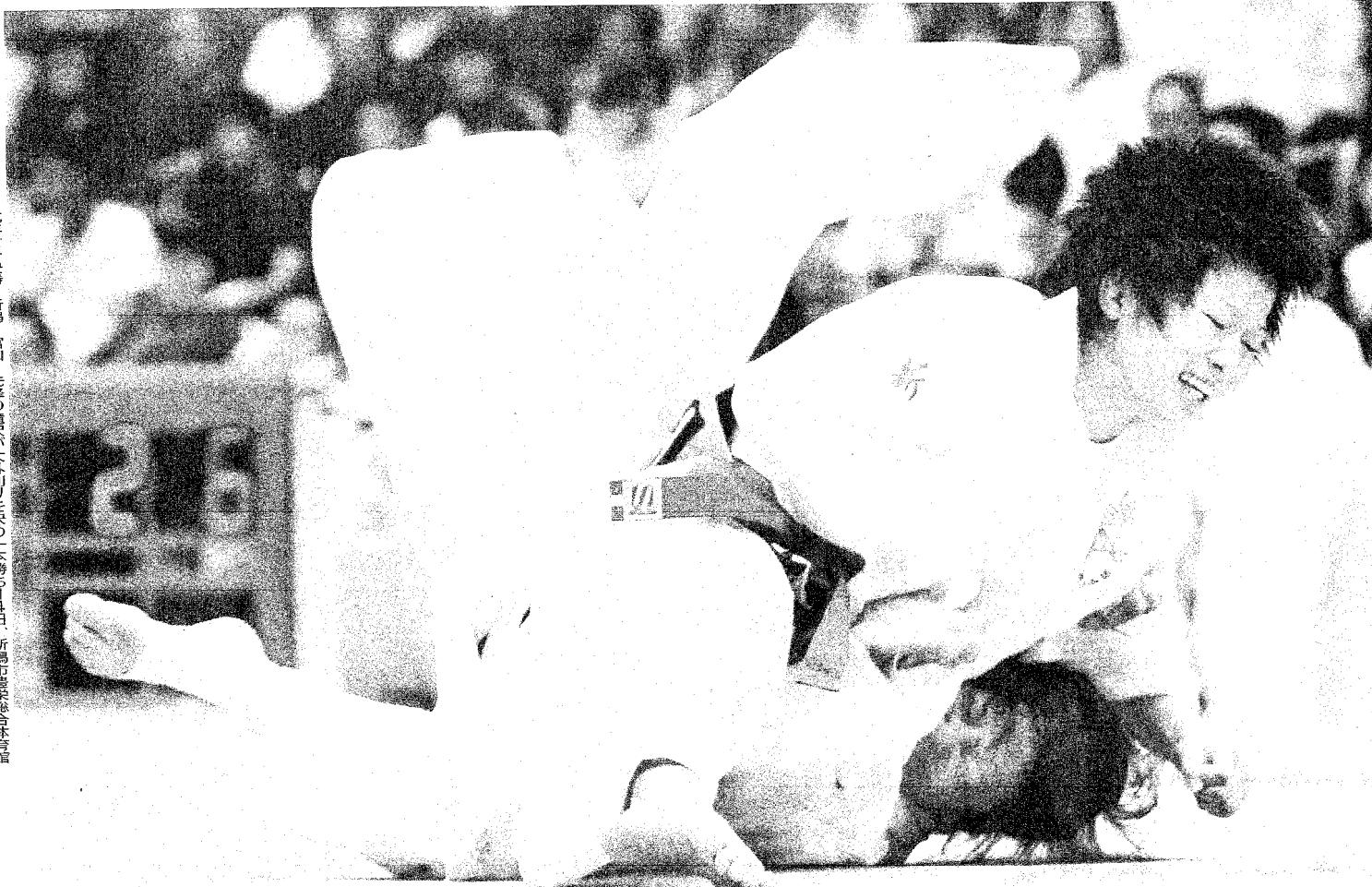
第6回国体大会「トキめき新潟国体」は4日、県内各地で19競技を行つた。県勢は柔道、成年女子が初優勝。剣道では少年男女がそろつて頂点に立つた。

トキめき
新潟固体

セーリングでも北京五輪代表の2人がアベック優勝を果たすなど、6日の最終日を前に総合優勝（天皇杯優得）へ向けラストスパートに入った。

サーフィン級成年男子の
富沢慎関東自動車工業
が2年ぶり3度目の優
勝、同女子の小萱寧子(原
連盟)は4度目の団体制
覇。銃剣道は少年が初優

猛攻しのぎ金字塔



トキめき 2009
初成年女子
チーム一丸難敵連

第 9 日



第64回国民体育大会「トキめき新潟国体」第9日は吉日、県内各地で19競技を行った。団勢力多寡の成年女子が同競技で初の優勝。剣道の少年も初の王者となつた。セーリングのウインドサーフィンは成年男子の瀧澤慎一(関東自動車工業)と、同女子の小曾根千穂(県連覇)が制した。剣道も少年男女がそろって頸点を立ち、日程を1日残して同種競技優勝を決めた。柔道も少年男女がそろって頸点を立ち、日程を1日残して同種競技優勝を決めた。剣道も少年男女がそろって頸点を立ち、日程を1日残して同種競技優勝を決めた。

空手も組手競技の柴田愛(新潟アルビレックスRC)が2位と健闘した。少年「ワールド」、同田嶋貴子(東洋大)が準優勝。陸上は成年女子200㍍の渡辺真弓(ナガハラ)が4位に食い込んだ。女子TAKOONは障害の高橋暁美(小出)は4位に食い込んだ。

成年女子決勝 新潟一宮山 先鋒の遠沢が大外刈りを決めて一本勝ち! 4日、新潟市農業総合体育館

カヌーのスラローム・カヤックシングル(56ゲート)は成年男子体験が2位に入り、成年女子の山田典妙(国際自然環境アクト)が3位。フェンシングは少年男子フルーレが4位入賞した。バレーボールの成年男子の制、バッケットボールの成年男子はビリは成年が初めの決勝進出。ホッケーも少年女子が決勝に駒を踏み入れ、ガシングルは2位入賞した。ガシングルは準優勝進出を決めた。男女総合成績(天皇杯)は本県が18006点、首位をキープ。2位差をつけている。